



発行所
 始良市平松6252番地
 鹿児島県防災研修センター内
 一般財団法人鹿児島県消防協会
 電話 (0995) 64-5401
 FAX (0995) 64-5402
 編集者 鹿児島県消防協会



年頭に際して

一般財団法人 鹿児島県消防協会 総裁
 鹿児島県知事 塩田康一

新年、明けましておめでと
 うございます。
 消防団員並びに消防職員の
 皆様におかれましては、日頃
 から地域住民に対する火災予
 防思想の普及・啓発に努めら
 れるとともに、消火や救急な
 ど厳しい任務を迅速・的確に
 遂行され、県民の皆様お一人
 おひとりの安心・安全な暮ら
 しの確保に多大な貢献をされ
 ています。
 また、地震・津波や水害な
 ど災害時には、人命救助はじ
 め応急対策等に献身的に従事
 され、県民の皆様の尊い生命
 と貴重な財産の保護に大きく
 寄与されています。
 昼夜を問わず常に第一線で
 消防・防災活動に御尽力いた
 だき、心から感謝申し上げます
 とともに、たゆまぬ御努力
 に深く敬意を表します。
 近年、地球温暖化の影響等
 によって世界的に自然災害が
 頻発・激甚化する中、昨年七
 月に、九州北部や東北地方等

新年のごあいさつ



一般財団法人 鹿児島県消防協会
 会長 内大久保 清志

令和六年の新春を迎え、謹ん
 で新年のお慶びを申し上げます。
 消防職員並びに消防団員の
 皆様、併せて関係機関・団体
 の皆様におかれましては、平
 素より当協会に対し格別のご
 支援ご協力を賜り、心よりお
 礼を申し上げます。
 また、地域の安全・安心を守
 るため、日夜献身的にご尽力さ
 れている皆様に対し深く敬意と
 感謝の意を表します。
 昨年を顧みますと、梅雨前
 線に伴う大雨により、県内
 は六月に奄美地方で線状降水
 帯が発生し土砂崩れや道路の
 陥没、家屋の浸水被害等が発

生するとともに、七月には福岡
 県、大分県等の北部九州におい
 て多くの人的被害や住家被害
 等が発生しました。また、八月
 には、沖縄近海に長期間とどま
 り大雨や暴風などの影響をも
 たらした台風六号による災害
 が各地で発生しています。
 現在は環境の変化を背景に
 様々な自然災害が発生する可
 能性がありますが、私達消防
 関係者は、地域防災の要とし
 て地域の住民から厚い信頼と
 期待を受けていることを常に
 念頭に置きながら、いつでも
 どこでも起こりうる災害か
 ら住民の生命と財産を守るた
 め、日々精進を重ねることが
 大事であります。
 さて、昨年は新型コロナウイルス
 イルス感染症の影響が軽減さ
 れ、当協会においても当初の
 計画に沿って各種事業を実施
 することができました。
 十月には、前回大会以来四
 年ぶりの開催となった第二十五
 回全国女性消防操法大会が東
 京都江東区の東京臨海広域防
 災公園で開催され、本県代表
 として、八月に霧島市消防局敷
 地内で開催した初めての鹿児
 島県女性消防操法大会で優勝
 した鹿児島市消防団の女性消
 防隊が出場されました。選手
 の精励されますことを御期待い
 たします。
 また、県民の皆様に対する
 防災知識の普及・啓発や自主
 防災組織の育成・強化、実効
 性ある各種訓練の実施等に引
 き続き取り組み、地域防災力
 の更なる向上を図ってまいり
 ますので、一層の御理解・御
 協力を賜りますよう、お願い
 申し上げます。
 結びに、皆様の御多幸と、
 今後ますますの御健勝・御活
 躍を心からお祈り申し上げます。
 年頭の御挨拶といたします。

皆様が一致団結して立派に操法
 を披露されました。指導に当た
 られた消防職員並びに消防団
 員の皆様、関係機関・団体の皆
 様、そしてご家族の方々に対し
 深く感謝申し上げます。
 今年十月には、第三十回全
 国消防操法大会が宮城県利府
 町で開催されます。皆様のご支
 援ご協力をお願いいたします。
 と、ところで、近年全国的に消防
 団員数の減少が続いており、全
 国では令和五年十月一日現在
 で七六四、九五八人、前年対比
 一九、四〇二人という大幅な減少
 となっており、最近五年間で約
 八万人の減少となっております。
 また、本県においても消
 防団員数は年々減少してお
 り、令和五年十月一日現在、
 前年対比で一七二人減少し
 一四、六一六人となっております。
 内訳としては、男性団員
 が前年対比で一五二人減少し
 一三、九八九人、女性団員が
 同じく二〇人減少し六二七人
 となっております。
 消防団員数の減少に加えて
 消防団員の高齢化も進行して
 おり、地域防災の要として消
 防団の重要性が益々増大する
 中で、消防団員の確保、とり
 わけ若年消防団員の加入促進
 を図る必要があるところです。
 消防職員並びに消防団員の
 皆様におかれましては、これ
 から消防団員の確保や消防
 団の活性化のためにご尽力い
 ただきますとともに、地域住
 民の信頼と期待に応えるた
 め、一致団結して士気の高揚
 と技術の練磨に努められるよ
 うお願い申し上げます。
 年頭に当たり、皆様のさら
 なるご健勝とご活躍を心から
 お祈りいたします。



わが町の消防団活動

「優良消防団」「表彰旗」を受章して



さつま町消防団長
 井手原 清美

さつま町は鹿児島県の北西
 部、北薩地域の中心部に位置
 し、人口約一万九千人、面積
 は三〇三、九〇平方キロメー
 トルで、町の北部には標高一、
 〇六七メートルの霊峰「紫尾
 山」があり、ここから分岐する
 山々に囲まれた緑豊かな町で
 す。町のほぼ中心を南九州一
 の大河である「川内川（せんだい
 がわ）」が貫流し、九州一の高
 さを誇る「鶴田ダム」や歌人
 与謝野晶子が讃えた「轟の瀬」
 など四季を通じて自然の景観
 にも恵まれています。また「美
 人泉」と呼ばれる温泉が町内
 の至る地域で湧出していること
 で、県内外に知られている歴
 史ある温泉地でもあります。
 本町消防団は平成十七年三
 月、宮之城町、鶴田町、薩
 摩町の三町合併により発足
 し、現在は十九分団、団員数
 三八〇名（定数四五二名）、水
 槽付消防ポンプ自動車一台、
 消防ポンプ自動車十六台、小
 型動力ポンプ積載車六台を保
 有し、地域に密着した消防団
 活動を展開しています。
 主な活動内容としては、
 春季・秋季火災予防運動週間及
 び年末の各管轄地域における広
 報活動のほか、消防署・隣接地
 域の分団と連携し、実際の火災
 現場を想定した中継放水訓練等
 に精力的に取り組んでいます。
 また、ほとんどの団員が普
 通救命講習を受講しており、
 緊急時のファーストレスポ
 ン

第二十五回全国女性消防操法大会に出場して

鹿児島市女性消防隊 隊長 和田 明 美

鹿児島市消防団は、内大久保清志団長以下、一本部五方面隊七十六分団、定員一、五七一人の体制で構成されており、ひとえに市民の安心・安全を願い、地域の防火・防災活動行っております。女性分団は、十五年前に団本部付の二十四名でスタートし、五年前に市内全域で活動する女性分団となり、現在五十名の女性団員がオランダーズの愛称で活動しております。

活動内容は、主に幼少児に対する防火教室や地域住民への防火防災寸劇・AED普及寸劇、そして消火器取扱いや煙体験ハウスの実施、応急手当指導など、市内全域を対象に年間を通して広報活動や体験活動を行っております。今年度の「全国女性消防操法大会」への出場は、これまでの輪番制から県大会を実施して決定することになり、日頃よりポンプ操法に挑戦したいと熱望していた私たちに「県大会優勝」を目標に掲げ、初めての軽可搬ポンプ操法に取り組みこととしました。

四月末、ゼロからスタートし、出場団員の努力は勿論ですが、サポート団員や指導をいただいた署員、そして家族・職場などたくさんの協力を頂き、県大会では見事に優勝することができました。

第十二回鹿児島県女性消防団員研修会を終えて

指宿市女性消防団 部長 下川床 恵子

令和五年二月十一日、第十三回鹿児島県女性消防団員研修会が、指宿市の指宿市民会館にて開催されました。本研修会は「鹿児島県の女性消防団員が一堂に集まり、消防団における様々な活動事例に触れ、さらなる団員活動の充実強化を図ること」を目的としています。

第十三回の開催地となった指宿市は、薩摩半島の最南端に位置し、南は東シナ海を臨み、明媚な風光を誇っています。中央部には九州一の大きさを誇る池田湖、南西部には「薩摩富士」と呼ばれる標高九二四mの開開岳、東部には潮の干潮で陸続きになる、環境省の「かおり風景百選」に認定さ

れた知林ヶ島を有しています。また、市の全域を霧島火山脈が縦断しており、世界に類を見ない「天然砂むし温泉」をはじめ、豊富に湧出する温泉に恵まれています。

そんな指宿市に研修会当日は、約三〇〇名のたくさんの女性消防関係者の方々が来てくださいました。本研修会を計画する上で、過去の他自治体の研修内容を振り返り、充実、満足していただける内容の研修会にするため、打ち合わせを何度も行い、準備を行ってきました。

開会セレモニーは、指宿市で活動を行っている山川ツマベニ太鼓の方々に、太鼓の披露をしてい

に優勝することができました。また、訓練期間のご多忙な中、快く視察を受け入れてくださいました始良市女性消防団、指宿市女性消防団の皆様にも併せて御礼を申し上げます。本当に、ありがとうございます。

十月二十一日の「全国女性消防操法大会」を迎え、スタート位置に立つ選手の姿を見て、誰一人欠けることなくこの舞台上立つことができたと対し、隊長として何よりも安堵したことを今でも覚えております。

出場団員は全国大会の舞台で、会場の独特な雰囲気、緊張することなく、訓練の成果を遺憾なく発揮し、堂々とした演技を披露してくれました。

全国大会までの道のりは、何もかもが初挑戦でしたが、大会後、次回の全国大会出場を見据えて決

意を新たにしている出場団員の姿は大変頼もしく見えました。今回の経験を踏まえ、鹿児島市消防団女性分団として、市民の皆様への安心・安全な暮らしと財産を守るため、これまで以上に一丸となつて消防団活動に取り組んでまいりたいと考えております。

最後に今年度三月には、県下の女性消防団員を迎え「鹿児島県女性消防団員研修会」が鹿児島市で行われます。

今回の操法訓練でより一層深まった女性分団の団結力を活かし、開催市として準備を進めてまいります。たくさんの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



ただき研修会が開会。研修会の始まりは、私たちの活動事例発表でした。題名を「私たちの防災活動ガイドライン」とし、これまで女性消防団が行ってきた活動や、研修、施設見学を踏まえ、女性消防団が防災活動についてできること、災害弱者の見守りや災害意識の啓発など、地域の防災リーダーとしての役割を担っていることの発表を行いました。発表後、大きな拍手をいただきましたときは、安堵の気持ちでいっぱいになったことを今でも深く覚えております。

次は霧島市消防団による活動事例発表でした。霧島市消防団の多くの活動内容を聞くことができ、防災意識の輪を広げていきたいと消防団活動に取り組む姿が大変伝わってくる内容でした。

そして、出水市消防団による啓発劇の披露は、みなさんの迫真の演技と、防災知識を普及する技

術にとっても驚きました。ユーモアあふれる演技に会場も笑いが絶えず、今後の私たちの活動にも取り入れたいと深く感銘いたしました。

最後には、鹿児島県地域防災アドバイザーの馬渡和男氏、村野剛氏による、防災をテーマとした講演でした。私たちも講演の一部に参加させていただき、実際に体験をしました。とても身になる公演で、有意義な時間となりました。

本研修会がコロナ禍を乗り越え無事終了できたのも、ご尽力いただきました県消防協会および指宿支部事務局、女性消防団員すべての方々のおかげであり、関係の皆様へ感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

そしてこれからも、私たち指宿市女性消防団は地域住民に寄り添い、人と人との繋がりを大切に、地域の消防防災リーダーとして活動を頑張ってまいります。



第十二回 令和四年度 「防災川柳コンクール」 入賞作品

最優秀賞 (二句)

○ 何度でも 空振りしていい すぐ避難 (荘子 隆)

優秀賞 (三句)

○ 「まだ早い」 思った時が 避難どき (服部 吉人)

○ ワンコにも 防災備蓄 にゃんこもね (直進猫)

○ 危機感と L字金具を 引き締める (糖質無制限)

今年度も現在募集中です。

皆さんふるって応募ください。応募方法は、鹿児島県防災研修センターのホームページをご覧ください。

【締切】令和六年二月三十一日

第二十八回全国消防団員活性化石川大会に参加して

阿久根市消防団 女性消防隊 花木京子

私達、阿久根市女性消防隊は五年前、防火防災啓発劇で青森大会に出場して以来の全国大会参加でした。

私達は発足十一年目を迎え、今まで様々な活動をしてきました。全国大会で各地の女性消防団の活動事例発表を拝見するのは、とても刺激になり、学べる場所でもあり、活動に生かせるアイデアがいっぱいあります。

今回は、どのような発表が拝見できるのか、楽しみに参加しました。

「ようこそ石川へ百万石の花と咲け！輝く女性消防団」を大会テーマとし、令和五年十一月十六日に開催された石川大会、約三千人の女性消防団員の参加で始まりました。

コロナ感染拡大の為、大会延期を余儀なくされてきた開催者側には、開催にあたって大変なご苦労があったと思います。

まず私達は、出展ブースの見学をし、各消防団が思考をこらした物品、展示品などを拝見し色々な話を聞く事ができました。

その中、静岡県ブースで見つけたのが出水市女性消防団の佐賀大会で展示された心肺蘇生Tシャツでした。また、情報交換会では同じ鹿児島県という事で兵庫県の団員にTシャツの件を聞かれ、出水市に連絡を取りました。こうして女性消防団員の交流の輪が広がっている事に感激しました。

舞台での活動発表では、大阪府女性消防団を筆頭に会場全体を巻き込んだ防災体操が多く、楽

しく踊って参加させてもらいました。

皆さん、色々なアイデアを出して活動されている事に感心しました。

また、小松市消防団員は、実際に体験した豪雨災害に、女性消防団員として、どのように向き合っただ結果、起こりうる災害に備えて「女性消防団員の出前講座」をし、防災・減災に対する取り組みをされていると発表されていました。

また、和歌山市消防団員は、ペット防災について発表され、ペットを飼っている方、ペットが苦手な方にもペット防災を正しく知ってもらおう活動をされていると発表されていました。

記念講演では、石川県知事・馳氏とお笑いタレント・山田邦子さんの対談でしたが、お二人のエピソードで笑いをとったり、女性の活躍の場が増えた事などを話されていました。

今大会に参加して、改めて自分達の活動を見直す事や活動の幅を広げていける事を再認識し、阿久根市女性消防隊の目標「私達にできること」「私達にやれること」で地域に寄り添い、女性消防団員としての防災、減災活動をしていこうと思えました。

最後に石川大会への参加にご尽力して下さいました県消防協会、市消防団本部、消防署職員の皆様に感謝申し上げます。



第28回全国女性消防団員活性化石川

第二十二回消防団幹部候補中央特別研修を受講して

いちき串木野市消防団 内野里映

令和五年二月十五日から二月十七日までの三日間、第二十二回消防団幹部候補中央特別研修に参加させていただきました。

本研修では、事前に割り振られた班ごとに課題が設定されており、その課題について、三日間にかけて班で討議し、最終日に成果報告を行うものでした。当班は「消防団活動の問題点と解決策」を課題とし、討議を重ねていきました。

初日に行ったグループ討議では、各団員が抱える問題や悩みなどを聞き、抱える問題は様々であることとを改めて認識しました。その中で、「人員不足」と「団員の熱量の差」、「消防団の固定された男性優位のイメージ」については班の共通問題としてあげられ、その問題は何か原因か話し合い、お互いの意見を聞く中で新たな発見があったり、自身の団の良さを知ることができたりして、情報を共有することの大切さを実感しました。

二日目に視察した東京都復興記念館では、関東大震災の絵巻や戦禍の写真等が展示されており、その生々しさは凄まじく、過去の悲劇からの教訓を活かし、防災・減災に努めなければならぬと強く思ったものです。

二度目のグループ討議では、一日目に問題としてあげられた、「人員不足」、「団員の熱量の差」、「消防団の男性優位のイメージ」の解決策について考えました。「人員不足」については、長期策として、まずは子どもたちに知ってもらうことから始めるべきだとの結論に至り、小中高校への広報活動等があげられ、短期策について

は、子育てが終了した方や引退したOB・OGを引き込むといったことがあげられました。「団員の熱量の差」については、消防団の必要性を認識させるため、研修の実施や消防団員向け補助金などの情報を伝える場を作ることや解決策として導き出しました。「消防団の男性優位のイメージ」については、広報活動不足の結果だと

してSNSなど人の目に触れる機会を増やしていくしかないという結論になりました。どの問題点にも共通していることは、「情報不足」という点でした。周囲への消防団活動内容の周知や団員同士のコミュニケーション、団と本部の情報伝達など、お互いに情報共有を図っていくことが求められているのだと思いました。

講師の方を招いて行われた講習では、各国の女性消防団の在り方や、火災予防教育について、消防団として受けられる補助や研修のこと、災害時における避難先での危険などを学び、それぞれについて深く考えるきっかけとなりました。

研修の最後には、各班それぞれが課題についてまとめ、発表を行いました。課題は違っても、結論としてあげられたのは、「情報不足」という点でした。今後は、その情報不足を改善すべく、消防団活動の周知と併せてこの研修で得た知識も普及し、防災・減災に活かしていきたいです。

最後に、本研修は、自身の意識と知識を高める良い機会となりました。このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。





生活協同組合全日本消防人共済会が『消防団、明るく元気な地域とともに』をテーマに募集した第二十三回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクールの入賞作品十一点（最優秀賞二点・優秀賞二点・佳作七点）が決定しました。本県からの入賞者は次のとおりです。

「防火防災に関する」 作文コンクール入賞作品

佳作 協力して守る

出水市立出水中学校

二年 下 蘭 虹 空

私の住んでいる出水市には、たくさん消防団がある。私の祖父と父、そしておじも消防団に入っている。

消防団に入っている人はみんな、自分の仕事を持ちながら、消防団にも所属している。私は祖父に、

「どうして自分の仕事を持ちながら、消防団の仕事もしているの。」と尋ねてみた。すると祖父は、

「ボランティアだよ。」と教えてくれた。「地域を守るため」「お年寄りを守るため」だと教えてくれた。

私はこのことを知って、すごいなと思った。私たちの住んでいる地域は、地域の人みんなで協力して守るとのこと。それにたずさわっている人たちが消防団なんだなと思った。みんな協力する気持ち、みんなが自分たちの手で地域を守りたいという同じ思いがすごいなと感じた。

祖父は消防団に入って三十七年経つそうだ。活動の中で怖い思いもしたことがあると言っていた。消防団は地域を守るためになくしてはならない存在だが、命の危険もある、大変な仕事だと改めて思った。そんな危険な仕事をボランティアという心でたずさわって活動してくれる人

に感謝の気持ちがわいてきた。だが、私は感謝の気持ちとともに、「なぜ危険な仕事だとかっているのに、ボランティアという心だけでたずさわられるのだろう。やりがいは何だろう」

と不思議に思った。私の友達のお父さんも消防団に所属しているため質問してみた。すると、

「市民の安全を守るために自分たちが存在しているという点、台風のとくに、消防団の活動を優先し、高齢者の人を手助けしてあげたときに、『こんなときに近くに来てくれてありがとう』や『あなたたちが近くに住んでいると思うと安心する』『ありがたう』と言われたときが、一番やりがいを感じたときだったよ。」と話してくださった。

私は消防団の活動がどれだけ大切で、地域を守るためになくしてはならないものかを改めて深く感じる事ができた。

自分たちの地域を、地域の人などで協力して守ろうということ、簡単にできることではないと思う。

祖父の所属している地域には、分団が二つあり、あわせて三十三人しかいないそうだ。若い人が少なくなってきた。祖父が言っていた。若い人が少なくなること、力仕事など大変なこともある。私は少しでも地域に協力してくれる若い人が増えるといいなと思う。

私も近所のお年寄りの方に声をかけたりして、地域の輪を広げて、自分のできるボランティアから、地域をよりよくしていきたいと思う。

燃ゆる感動 かごしま国体

「熱い鼓動 風は南から」のスローガンのもと、「コロナ禍からの再生と飛躍」を象徴する大会になりました。各競技会場においては、熱戦が繰り広げられ、多くの観客の熱い声援が響き渡り、大変盛り上がった大会となりました。



消防の仲間が支える
個人年金消防個人年金に加入を

将来の自分の為の
積立年金制度です



まさかの時
お役に
立ちます！

掛金25口2,500円で、56%以上の焼損の場合

火災共済金375万円のお支払い

風水雪害等共済金付

1500倍補償

消防団員・消防職員ならどなたでも加入できます